

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13175

研究課題名（和文）17-19世紀日本・朝鮮・中国三国間関係史の研究 朝鮮・対馬経由の中国情報分析

研究課題名（英文）Intelligence on China in Documents of the Tsushima So Family

研究代表者

程 永超（Cheng, Yongchao）

東北大学・東北アジア研究センター・准教授

研究者番号：80823103

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、対馬藩の大陸情報収集活動が、幕末期において藩主にとって非常に重要な職務となっていたことが明らかになった。情報収集は釜山倭館の設置時からの目的であり、幕府は複数の情報源からの情報を照合することを意図していた。また、女真族の動向などが、対馬藩主の情報収集職責の形成に促進的な役割を果たしていた。丁卯の役と丙子の役をめぐる情報収集の差異や、訳官使の来日が情報を迅速に収集するための不可欠な手段であった点も指摘されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、17世紀から19世紀にかけて対馬藩が行った中国関連の情報収集活動に焦点を当て、東アジアの複雑な外交関係を再評価している。対馬藩が地域的な情報ハブとして機能し、東アジアの国際関係にどのように影響を与えてきたかを解明することで、日本の「鎖国」下での外交活動について新たな理解を提供している。特に、対馬藩が朝鮮との交渉の中で情報収集をどのように行っていたかについての詳細な分析を通じて、地域安全保障や国際関係における情報の重要性と役割重要性を理解するための示唆を提供している。なお、本研究は外交史や情報史、地域研究にとどまらず、現代の国際関係における情報の役割を歴史的な視点から明らかにしている。

研究成果の概要（英文）：This study reveals that intelligence-gathering activities on China by the Tsushima domain were a very important duty for the lord of Tsushima during the late Edo period. Gathering intelligence was a goal since the establishment of the Japan house in Busan (J. Wakan, K. Waegwan), and the Shogunate intended to collate information from multiple sources. Additionally, developments such as the Later Jin's invasion of Joseon (1627) played a facilitative role in shaping the intelligence-gathering responsibilities of the Tsushima lord. The study also highlights differences in intelligence collection related to the Later Jin's invasion of Joseon and the Qing invasion of Joseon (1636), and also points out that the arrival of Joseon missions to Tsushima (J. Yakkanshi, K. Munuihaeng) was an essential means for swiftly gathering intelligence.

研究分野：日本史

キーワード：対馬藩 大陸情報 訳官使 倭館 清の入関 丁卯の役 丙子の役

## 1. 研究開始当初の背景

16世紀以前の中世までとは異なり、17世紀から19世紀に至る近世には、日本(徳川)と中国(明・清)との間には国家間の正式な外交が存在しなかったとされる。近世の日中関係は、政治外交関係としては、かろうじて朝鮮王朝と琉球王国を介した間接的なつながりによって支えられていたと考えられてきた。江戸幕府は「鎖国」の下にあり、長崎・対馬・薩摩・松前の4ヶ所(日本近世史研究で言う「四つの口」)を介してのみ異国・異域との交流が成し遂げられたと理解されている。清朝が中国大陸を平定して以降、日中間の関係は「沈黙外交」(岩井茂樹氏)あるいは「国交なき外交」(杉山清彦氏)となった。このような間接的な政治関係の構築の背後に、どのような情報活動が存在していたか、情報の働いていた役割は無視することができない。

一方、近世日本は「中華的な世界秩序」(Chinese World Order)から距離を置きながらも、積極的に中国大陸の情報を収集していたことが、ここ30年間の研究によって明らかになっている(岩下哲典・真栄平房昭・荒野泰典・Ronald P. Toby・松方冬子等)。

ロナルド・トビ氏は、清で起きた三藩の乱(1673~1681)を事例分析として幕府による外国情報収集の主要ルートをつぎのように整理した。(1)長崎到着の「中国」商人 唐通事 長崎奉行 江戸(以下唐船風説書ルート)(2)北京 福建 琉球 薩摩 江戸(以下琉球・薩摩ルート)(3)オランダ甲必丹 オランダ通詞 長崎奉行 江戸(以下オランダ風説書ルート)(4)北京 ソウル 対馬 江戸(以下朝鮮・対馬ルート)。

このうち、トビ氏は4については、対馬宗家文書を始め、中国 朝鮮 日本の間で往復した多数の文書が残っていることから、その情報の流れが具体的な文書の往復を介して確実に追検証できる、と評価する。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、17-19世紀対馬藩が収集した中国関係情報を網羅的に整理し、「北京 ソウル 釜山 対馬 江戸」ルートの通時的考察と再評価によって、近世日中外交関係形成における朝鮮や対馬藩の役割と位置付けを究明することである。さらに、近世日中関係の独特な構造形成過程を分析するための基礎となる研究を進め、東アジア国際関係史を再構築することを目指す。

## 3. 研究の方法

本研究の分析は、主に膨大な対馬藩の宗家史料に依拠している。対馬宗家文書とは、江戸時代の対馬藩(現在長崎県対馬市)の藩主であった宗家によって作成・管理された古文書類であり、対馬藩政史料あるいは宗家文庫史料と呼ばれたこともある。これは12万点を超えた膨大な史料群であり、近世日朝関係のみならず、東アジア国際関係を解明するための根本史料である。時代的には、江戸時代初期(17世紀初頭)から幕末維新时期(19世紀)までの日朝外交の実務や毎日の出来事などに関する約三百年間の記録が中心であるが、江戸時代以前の史料や明治前期以降の史料も含まれている。現在日本の6ヶ所(国立国会図書館、長崎県立対馬歴史民俗資料館、九州国立博物館、東京大学史料編纂所、慶應義塾図書館、東京国立博物館)と韓国の1ヶ所(大韓民国国史編纂委員会)、合わせて7ヶ所に分散した形で保存されている。

本研究は日本と韓国の七ヶ所に分散されている対馬藩宗家文書に基づき、対馬口から入った中国情報を、国際外交に影響を与えたとされる史実から、その伝達実態を解明する

## 4. 研究成果

### (1)対馬藩にとっての大陸情報収集活動の重要性

大陸情報の収集は、釜山に倭館を設置した際からの目的の一つであったが、幕末期には、これが対馬藩主にとって「御役職第一」と言えるほどに非常に重要な職務となっていた。幕府は、既に入手した大陸情報の質を見極めるのに、異なる情報源からの複数の情報を照らし合わせることを意図しており、対馬からの大陸情報収集の成果に期待していた。(『華夷変態の東アジア：近世日本・朝鮮・中国三国関係史の研究』清文堂出版、2021年、第六章 近世初期の対馬藩と大陸情報収集)

## (2) 丁卯の役と丙子の役をめぐる対馬藩の情報収集活動の差異

女真族の動向が対馬藩主の大陸情報収集の職責形成上で促進的な役割を果たした。また、明清戦争（清の入関）以前には、対馬・朝鮮ルートは既に機能していた（口頭発表済、後日文章化する予定）。

## (3) 訳官使の来日と対馬藩の大陸情報収集活動

訳官使の来日が対馬藩にとって朝鮮半島や大陸情報を迅速に収集するための不可欠な手段である。訳官使が直接対馬藩主と日本語で会話することは可能であるが、会話内容が文字化される傾向にある（口頭発表済、後日学術図書に掲載する予定）。

## (4) 朝鮮から明・清へ報告された柳川一件とその影響

柳川一件及びその影響について、朝鮮が明、そして清に報告した。朝鮮が明へ報告した際に、柳川一件の概略を伝えつつ、東萊府使・釜山僉使宛宗義成書契を部分的に削除し、馬上才の日本派遣を伏せている。明清交替後、朝鮮は清に対し、柳川一件の影響のうち、対馬が朝鮮へ送使の権益を返還したこと、玄方送使と調興送使がそれぞれ交代したこと、そして以酌庵輪番僧の交替については報告したが、以酌庵輪番制の存在は報告しなかった。（『朝鮮から明・清へ報告された柳川一件とその影響』『宗教遺産テキスト学の創成』勉誠出版、2022年）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 CHENG Yongchao	4. 巻 2022
2. 論文標題 Diplomacy and Kingship : Trilateral Relationships among Japan, the Choson, and the Ming during the Reopening of the Pusan Trade in 1604	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 世界の日本研究 = JAPANESE STUDIES AROUND THE WORLD	6. 最初と最後の頁 60~73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15055/00007953	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 程永超	4. 巻 なし
2. 論文標題 朝鮮通信使と歴聖大儒像	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 シンポジウム 徹底解剖! 狩野山雪「歴聖大儒像」報告論文集	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 程永超	4. 巻 23
2. 論文標題 日本近世初期對馬藩的中國情報蒐集活動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北大史学 = Clio at Beida	6. 最初と最後の頁 9.78752E+12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 程永超	4. 巻 865
2. 論文標題 書評 木村拓著『朝鮮王朝の侯国的立場と外交』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 99-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 程永超	4. 巻 4
2. 論文標題 近世前期の対馬藩と大陸情報収集	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 23,44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zhong Han, translated by Cheng Yongchao	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 Rewriting the "World History" Centered on "Central Eurasia": A Review of the Recent Tendency in Inner Asia Studies in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The BNU Historical Review	6. 最初と最後の頁 112,177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 程永超	4. 巻 3
2. 論文標題 十七世紀初頭釜山開市許可をめぐる日朝中三国関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『訳官使・通信使とその周辺』	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 程永超	4. 巻 2
2. 論文標題 文化度信使の筆談研究の一断面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『訳官使・通信使とその周辺』	6. 最初と最後の頁 71-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 訳官使の来日と対馬藩の大陸情報収集活動
3. 学会等名 シンポジウム「人びとの近世史」（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 日本から見た近世の中朝関係(原題は韓国語)
3. 学会等名 近世東アジアの疎通と交流(原題は韓国語) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 書評 川西裕也・中尾道子・木村拓 編『壬辰戦争と東アジア』(東京大学出版会、2023年)
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西西部会 2024年2月例会(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 対馬宗家文書与東亜国際関係史研究
3. 学会等名 上海師範大学亞洲史前沿講座(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 壬辰戦争後の中国、日本、朝鮮三国關係
3. 学会等名 山東大学歴史文化学院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 明清鼎革与日朝關係
3. 学会等名 浙江工商大学東亜研究院「区域国別学系列講座」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 書評 松本智也著『 文事 をめぐる日朝關係史 近世後期の通信使外交と対馬藩』（春風社、
3. 学会等名 第22回「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 丁卯、丙子之役と対馬
3. 学会等名 「近代東亜知識の生成と変異」青年学者工作坊(第三期)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 清（後金）の朝鮮侵略をめぐる対馬藩の情報収集活動
3. 学会等名 歴史資料学研究会第14回例会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 朝鮮通信使与歴聖大儒像
3. 学会等名 東亜文化交渉学会第15回年次大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yongchao Cheng
2. 発表標題 A Mixture of Falsehood and Reality: Tsushima Domain's China-Related Political Intelligence-Gathering Activities in the Seventeenth Century
3. 学会等名 Association for Asian Studies 2023 Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 17世紀の訳官使と対馬藩の中国情報収集
3. 学会等名 第十五回「訳官使・通信使とその周辺」サブグループ
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 朝鮮通信使と「歴聖大儒像」
3. 学会等名 第十五回「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 17世紀譯官使的訪日與對馬藩的中國情報蒐集活動
3. 学会等名 「東亞海域歷史上的人與物」學術工作坊（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 朝鮮通信使と歴聖大儒像
3. 学会等名 シンポジウム 徹底解剖！狩野山雪「歴聖大儒像」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 朝鮮向明清彙報の柳川一件及其影響
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会第14回年次大会（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 對馬宗家文書與東亞國際關係史研究
3. 学会等名 北京大学東北亜研究所講演（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 どこが真実？どこが虚構？ -朝鮮通信使関係巻物についての一考察
3. 学会等名 第7回東北大学若手アンサンブルワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 CHENG Yongchao
2. 発表標題 Trilateral Relationships among Japan, Korea, and China after the Imjin War
3. 学会等名 Aftermath of the East Asian war of 1592-1598 Research Seminar（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 近世初期的对馬藩与中国情報搜集
3. 学会等名 近代東亜の知識生成与変異青年学者工作坊第二期（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 CHENG Yongchao
2. 発表標題 Diplomacy and Kingship : Trilateral Relationships among Japan, Korea, and China in the early 17th Century
3. 学会等名 Nichibunken Overseas Symposium II (EAJS2021 next-generation workshop) Age of Monarchy/Monarchy for Age: Revisiting Monarchy from a Comparative Perspective (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 CHENG Yongchao
2. 発表標題 Narrative and Historiography: Tsushima domain 's Perception of Imjin War
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 CHENG Yongchao
2. 発表標題 Weapon of Diplomacy: Japan's Weapon Export to Korea in 17th century Northeast Asia
3. 学会等名 The 4th International Scientific Conference "Current Issues in the History, Foreign Relations and Culture of Asian Studies" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 書評：木村拓『朝鮮王朝の侯国的立場と外交』（汲古書院、2021年）
3. 学会等名 第11回「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 近世初期的对馬藩与中国情報搜集
3. 学会等名 山東論壇2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 1630年代の対馬・朝鮮・明清中国
3. 学会等名 上廣歴史資料学研究部門研究報告会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 一六三〇年代の対馬・朝鮮・明清中国
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会(第8回サブグループ)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 十七世紀初頭の日朝関係と中国 - 日朝貿易の回復と朝鮮の倭情辯証を中心に -
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会（第1回サブグループ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 17世紀前期対馬・朝鮮經由の日明通交交渉からみる中日朝三国間関係
3. 学会等名 名古屋大学高等研究院第22回YLCセミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 通信使の筆談と大陸情報収集
3. 学会等名 日本思想史研究会11月例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 対馬藩の中国情報収集活動
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会（第2回サブグループ）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 17-19世紀日本・朝鮮・中国三国関係史の研究がなぜ必要なのか
3. 学会等名 第79回東北アジア研究談話会（招待講演）
4. 発表年 2021年

## 〔図書〕 計8件

1. 著者名 復旦大学文史研究院	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中華書局	5. 総ページ数 509
3. 書名 全球視野中的明清鼎革	

1. 著者名 程 永超	4. 発行年 2021年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 382
3. 書名 華夷変態の東アジア	

1. 著者名 ヴィグル・マティアス	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 292
3. 書名 近世・近代期筆談記録が語る東アジアの医学・学术交流	

1. 著者名 木俣元一、近本謙介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 728
3. 書名 宗教遺産テキスト学の創成	

1. 著者名 近本謙介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 544
3. 書名 ことば・ほとけ・画像の交響	

1. 著者名 李曉東、李正吉主編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 秀威出版(秀威資訊)	5. 総ページ数 520
3. 書名 東北亞近代空間的形成及其影響	

1. 著者名 毛立平, 張小綱, 牛貴傑	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中国社会科学出版社	5. 総ページ数 535
3. 書名 風尚、社会与風雅：十八世紀東西方的共時性	

1. 著者名 楊魯慧、張淑蘭、ケイ永鳳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 山東大学出版社	5. 総ページ数 459
3. 書名 国別區域視闡下的百年变局與東亞合作	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------